

丸山湿原群保全の会会報

(第 153 号)

発行日：2020 年 (R2) 4 月 14 日 編集／発行：丸山湿原群保全の会
〒669-1211 宝塚市大原野字炭屋 1-1 西谷地区まちづくり協議会事務局内

TEL/Fax0797-91-1788
090 - 1895 - 8061 (今住)

E-mail : maruyamashitugengun@gmail.com

ますます世の中の状況は悪くなり、「緊急事態宣言」発出に。せつかくの春がどこかへ行ってしまったような日本です。これほどの事態になるとは誰が予想したのでしょうか。しかし、田舎に住んでいると実感がわからないのも事実。農作業は一人や数人の作業。ルーチンに全く影響なし。学校が休みになっているのが大きな変化でしょうか。

今回の出来事は社会構造の変化をもたらすといわれています。テレワークや TV 会議。ネット環境さえあれば、どこでも繋がれることを実感された方も多いのでは。大都市集中社会から地方分散社会へ舵が切られるかも知れません。でも、人は忘れやすいからね。

とにかく今はコロナ退治と、生活が不安定になっている方々の救済。これを最優先にそしてスピーディーにお願いしたいものです。

西谷には流入人口が増えているようです。「3 密」を避け、ハイキングや散歩にたくさんの方が来ています。都市部からの近距離オアシスですね。公共交通機関はなるべく使わずに来るのが安全なようです。運行されてる方には「痛し痒し」ですね。ご苦労様です。くれぐれもご用心！

(今住 4 月 13 日作成)

第 3 湿原上手樹木伐採 阪神北県民局発注 丹波市森林組合作業 3 月 18 日 (水) 終了

前回でも紹介した伐採が終了しました。こちらの要望をはるかに超える面積を処理していただき、美しい疎林となりました。山の頂上がはっきりと見え、すぐに第 2 湿原の斜面に出ることが



山頂まで見渡せる斜面

できます。(第 2 湿原斜面は藪漕ぎ必要) また、北側は進入路 (歩道) 上手のズリ (はげ山) まで繋がりました。この作業でひょっとすると出水量が増えるかもと期待しています。水文学 (すいもんがく) の理屈では「増える」はず?らしいのですが、どうもこれが理屈の通りには行かないのが「自然」みたいです。

今回もいろいろお話を聞くことができました。森林組合の待遇なども。危険な作業が多いので、かなりの日当が支払われていると思っていましたが・・・だそうで驚きでした。しかも機材・道具類 (チェーンソー・刈り払い機等) は自前。燃料代もしかり。驚きの連続でした。組合の批判をしているのではなく、林業の実態を垣間見た気がしました。農業も同じですが・・・

しかし充実感が高いようで、働く喜びは代えがたいものがあるそうです。定年も特になく、動ける間は現役だそうです。ただし契約の更新期間が短くなる。今回は若い方も参加。23 歳で専門とのこと。「頑張れ！」日本の山林を荒らさないためにも。コロナの影響で 1 次産業の重要性も上がっています。何とか国内で循環が上手くいく社会になってほしいと思います。でも、閉鎖的なのは嫌ですよ！そしてフェアトレードで。



比較的若い方の作業 重装備

定期活動 ★3月22日(日) 作業 第4湿原又マガヤ運び出し・観察 J:comTV取材
兵庫県立尼崎小田高校教諭も参加 11名で作業

2019 年度最後の活動です。といっても継続的に続くのでこれといった変化はありません。前回から入会した親子会員も参加。しかも J:comTV 取材あり。加えて尼崎小田高校の先生も。

小田高校は昨年度の「両生類卵塊数調査」に生物部が参加。その後、先生からセトウチサンショウウオの DNA を調べたいと連絡がありました。学校として取り組むには、やはり手続きが煩雑なようで「文化財課？」のお墨付きをいただいでの参加です。いろんな人が集まってきて楽しい作業日です。やはり人の多様性も素晴らしい。



TVが入っても地味な草集め



二頭目 エサも多い？



セトウチサンショウウオ

少年の目が冷たく私を見つめていました。集まってきた J:com さんや会員の目も・・・

これはいかんと思いきまかしている、またまたなんということでしょう、切り株の穴を覗き込むと。「おー！もう1匹(頭)！」。今回は取り出す前に J:com カメラや皆さんのカメラに収め、慎重に取り出し(あまり褒められることではないですが・・・)少年の手に。お母さん、J:com さん、先生、会員みんな幸せになりました。「よかったよかった」とさ。

少年よ、今回も大手柄！私は反省です。何事も慎重に慎重に。

とはいえ産卵期以外で成体(亜成体?)を見られるのはごくまれ。湿った丸太の下や、ときには家の植木鉢の下にもいるようです。が、まず見つからないのが普通。生活場所がはっきりとわかっていないようです。卵塊数調査の時に見つかった亜成体もほぼ湿原内。(水はない)隠れ家となる環境も湿原内には必要と改めて感じました。倒木や木の切り株も適度に残しておくことが多様性をはぐくむのでしょうか。又マガヤも？バランスやね。それこそ多様性か！

しかし、作業はいたって地味。2月に刈り取った第4湿原の又マガヤを運び出します。会員はかなりだるい雰囲気。J:com さんはその様子を撮影。悟られぬようひたすら外へ外へ！先生も少年も頑張ります。翌週の火曜デイリーニュースで放映されましたが、草を抱きかかえて柵ロープに引っ掛かり「こける」少年の姿が印象的でした。(ごめんやで)また、小田高校の先生の楽しそうなインタビューも。ここで驚くべき発見が！少年が作業を黙々と続けほぼ終了というときです。私たちもやっていますのでお忘れなく。「なんかおる〜！」との声。作業が始まる前、「何か見つけたら大声で連絡せよ！」と指示を出していました。(たぶん言ったような？多少の誇張あり)すると湿原内の腐った切り株を引きちぎっているではありませんか。「ここ、ここ」と覗いてみると、セトウチサンショウウオ(瀬戸内山椒魚)が休んでいました。「セトウチサンショウウオや！」と声を上げた後、調子に乗った私は手で掘り出し見せる。かなり木くずや土で汚れていた、水たまりですすぎました。すると、なんということでしょう。するりと手を抜け途端に泥の中に隠れてしまいました。探しても見つからず。少年



人間の多様性



取材される会員と水採取中の高校教諭



シハイスミレ



タムシバ花 4月4日(玉瀬)

小田高校の先生は今回成体(亜成体)を見ることができるとは思ってもいなかったとのこと。お手伝いいただいたご褒美なんでしょうか？ラッキーでしたね。で、DNA ですがセトウチサンショウオを切り刻み持ち帰られました。**嘘です**。会えるとも思っていないのですから。ではどうしたか？水を「数本の容器」に入れて持ち帰られました。これまでは幼体(ウーパールーパーのような)の尻尾の組織をちょびっと採取してそこからDNAを培養(今話題のPCR検査ではない)するのが普通だったんですが、最近は「**環境DNA**」という技術が注目されています。水の中に流れ出た排泄物や、皮膚などからどのような生き物がいるかが確認できるそうです。すごい技術です。海でも活用され始めているとか。漁に外れなしか？そこがまた自然は不思議なもので、いても獲れない、見つからないことも多いとか。流れる水からも検出できるそうですからどうなってんの？の世界です。「すみません。水ください。」の言葉にも注意が必要な時代がくるかもしれませんね。いろいろ情報が盗まれる・・・

J:comさんもコロナの影響でイベントの中止や活動自粛が多い中、「話題」探しに奔走しておられるよう。今年度最後の活動として取材していただき、「春」もテーマに。咲きかけの**タムシバ(田虫葉)**、**コバノミツバツツジ(小葉の三葉躑躅)**、幼体が動くカスミサンショウウオの卵囊など大きく取り上げていただきました。ありがとうございました。

お散歩 ★4月11日(土) お散歩していると、偶然あった5人がレポート

| 目的 | 市内 | 市外 | 場所 | 時間 | 気温【水温】 | 電気伝導度(EC) | PH |
|--------------------------|----|----|------|-------|--------|-----------|-----|
| 丸山 | 46 | 41 | 入口 | 10:00 | 16℃ | | |
| ハイキング | 10 | 28 | 第3湿原 | 10:40 | 17.0℃ | エラー | 6.9 |
| その他 | 37 | 27 | 視点場 | 10:55 | 17.0℃ | エラー | 7.0 |
| 来場者数 計 189人 (竹筒ポスト人数) | | | 第1湿原 | 11:05 | 19℃ | エラー | 6.7 |
| | | | 第2湿原 | | | | |

特別措置法に基づく緊急事態宣言が出て、**ボランティア団体も活動自粛が多い**ようです。丸山はどう？「**3密**」が防げれば問題ないと判断しています。丸山はいつも「**3空**」。「**広い空間**」「**うまい空気**」「**財布が空でも大丈夫**」。公共交通利用者だけが問題か。しかし、**活動!**とも言いづらい。

ということで、偶然会った5人が**お散歩をしてレポート**してくれました。今回は散歩してませんが、したように書かせていただきます。

5人はマスク着用。ロ々にソーシャルディスタンスとつぶやきながら。気まずい雰囲気です。(嘘



クロモジ花 終盤

燃やすとどんな感じ？一度やってみてください。今のところコロナウイルスをやっつけてくれるような効果はないようですが、抗インフルエンザなら抗ウイルス(コロナ)も多少はあるかも。

さらに駐車場周囲を覗くとたくさんの**キランソウ**（**金瘡小草**）が。地面を這うように咲いていました。別名「**地獄の蓋の蓋**」。いつもこの花を紹介するときはこの名前の説明。死にかけて地獄に落ちかけたところ、この薬草の効果で「**地獄に蓋**」ができ落ちずに済んだとか。結局天国に行ってしまうば終わりですが、そうではなく死なずに済んだという話だそうです。そこで「**医者殺し**」という名前も。医者を殺してどうすんねんと思います。廃業という意味。「**弘法草**」という名も。薬草として弘法大師（空海）が広めたということから。いずれにせよ多くの名を持つ植物で民衆に親しまれていた証。薬効もかなりなものようです。葉の絞り汁は傷薬にもなるそう。



キランソウ コロナに蓋を！

刀傷にも使われたとか。抗ウイルス成分はどうなんでしょうか？とにかくコロナを・・・

駐車場から出発すると、コバノミツバツツジが美しく迎えてくれました。ここの平場はヒメカンアオイも多く、**ギフチョウ**（**岐阜蝶**）の産卵場所に。今回も出会えるかと期待しましたが残念。先週訪れた方は確認されています。今がちょうど全盛期（例年より早い？）かと思われます。



お散歩！ 安全距離とマスク

今年はこちらで確認情報あり。冬の暖かさがよかったのか。1年1化だけに環境変化にとても弱い。多く出たということで環境の変化が無かったと言えそうです。（保全されている）鳥などのエサも豊富にあり蛹が多く生き残れたとも。想像は膨らみます。



ギフチョウ 4月4日(玉瀬)



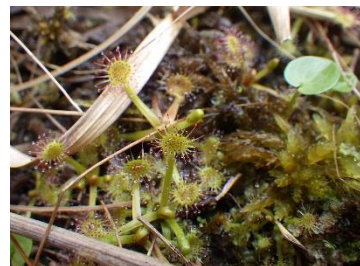
サルトリイバラ 花と新芽

珍しいものではありませんが**サルトリイバラ**（**猿捕り茨**）も開花中。猿でも捕まえてしまう棘の茨。別名「**山帰来**（**サンキライ・サンキラ**）」山から帰ってこられる植物。病気でもう命が短く「**山に捨てられた**」人がこの植物の根を食べ元気になって帰ってきたという。諸説あり。調べてみてください。私も調べながら書いてます。コロナにはどうでしょう？



ショウジョウバカマ

湿原内はやっと春の雰囲気。ショウジョウバカマ（**猩々袴**）「**猩々緋**」から「**白**」まで色に変化が多く美しい。終わりの花茎は緑のまま残ります。（種？）機会があれば確認してください。**モウセンゴケ**（**毛氈苔**）もかなり大きくなり虫取り作戦を実行中。しかし結構虫捕りが下手なこの子。未だ捕獲できず！がんばれー！



モウセンゴケ 虫は未捕獲



機材エラーに茫然のお散歩！ そうそう、**なぜか**散歩の皆さんは基礎調査もなさっているようですが、データを見ると「**抜け抜け**」ですね。エラーしてますがな。エラーの訳は**バッテリー切れ**。メンテナンスミスです。申し訳ない。



ネロンガ足跡？怖い怖い！

最後に第4湿原奥に見える高圧電線鉄塔。この支柱に**謎の足跡**が。誰か登った？イタチ？アライグマ？はたまた妖怪？目的は何？**電気を食べる怪獣ネロンガ**？（マニアック）怖い怖い・・・

次回お散歩・柴刈り 4月26日（日）5月9日（土）24（日）6月13日（土）（午後総会??）

総会については追ってご連絡します。